

現代短歌分類辭典

第三十一卷

津端修編纂

津 端 修 編纂

現代短歌分類辭典

第三十一卷

現代短歌分類辞典

31

昭和四十七年七月十日発行

定価五五〇円

著者発行
兼印刷者

津 端 修

〒
164

東京都中野区上高田二丁目九の一六

発行所

津 端 修

振替 東京 六七三四一番
電話 三八七局八四二九番

凡 例

- 一、明治、大正、昭和三代に詠まれた主要な歌三十七万四千首を分類した。
- 一、分類の基準は単語を中心とし、単語には、品詞名をつけた。
- 一、単語の排列は、五十音順に従った。
- 一、歌は原作の仮名遣いにしたが、初版本に拠る方針をとった。
- 一、序文は第十二巻に掲載した。
- 一、歌の下にある記号は歌集名の略符号である。
- 一、単語の説明は、新仮名遣いに従った。

目

次（第三十一卷）

歌数	頁数	歌数	頁数
六六二	一	二四	七三
一六	あまた―は	一	七五
六	あま鯛	一	〃
一	あまた日	一	〃
一	あまたひと	一	〃
三	あまだむや	一	六
四一	あまた―も	一七	〃
七	あまたもくざい	一	七
一	あまた夜	二	六
一	あまたし	七	〃
一	あまたし―たり	二	〃
一	あまたし―たる	一	九
二	あまたし―ます	三	〃
一	あまたらす	五	〃
二	あまたに	二〇	〃
〇	あまたに	一	〃
九	あまた―の	一	八
	雨垂り		
	雨垂落		

天つかりがね
 あまつ狐
 雨月夜
 天つ霧
 天つ国
 天つ国原
 天つ国見
 天つ雲
 天津雲路
 天津雲原
 天つくもり
 雨づけーば
 天つ心
 天つ声
 天つさかえ
 天つ狭霧
 天つさとし

一 六 一 一 三 一 一 一 一 八 一 二 四 〇 一 一 二

一七 〃 〃 〃 一六 〃 〃 〃 一五 〃 〃 一四 一三 〃 〃 一三 一三

天つ罪
 天つ使
 同
 天伝ふ（終止形）
 天づたひ来る
 天づたひ
 天つ棚雲
 天つ空
 あまつすがそ
 天つ象徴
 天つ白雪
 天つしら浪
 天つしら鳥
 天つ白雲
 天つ時雨
 天つさ夜風
 あまつさへ

一 一 三 二 一 一 一 四 一 一 一 一 一 六 一 一 二

〃 三 〃 〃 〃 一五 一四 一二 〃 〃 〃 〃 一〇 〃 〃 一〇 一七

// // // // 一六六 // // 一六五 // // 一六四 一六〇 一五九 一五八 // 一二六 一二五

天つ使命（あまつよさし）	三	一七	海人どち	一	二〇四
あまつよし稲	一	〃	雨樋	九	二〇五
天つ災	一	一八	天飛ぶや	三	〃
天つ少女	六	〃	海人ども	二	二〇七
尼寺	三	一八	雨どよ	一	〃
あまてらし	一	一八	雨土用	一	〃
天照しーたり	一	〃	天どよみ	一	〃
天照らす	三	〃	甘菜	五	〃
天照大神	一	一八	あまないち	一	二〇八
天照らす神	三	〃	天中	二	〃
あまてらす日の大神	一	一七	雨中	六	〃
あまてらすめ大神	一	〃	雨名残	一	二〇九
天照る	三	〃	あま梨	一	〃
天照るーや	三	一八	甘納豆	三	〃
雨戸	一七	〃	甘なはーまし	一	〃
雨期（あまどき）	一	二〇	あまなふ	一	二一〇
雨戸すき間	一	〃	天なるや	四	〃

甘肉
 雨濁り
 海人女房
 尼女院
 尼沼
 遍ねからーざる
 遍ねからーしめ
 あまねかりーけり
 あまねかりーし
 あまねかりーせーば
 あまねかりーにーし
 あまねかる
 あまねかるーかな
 あまねかるーべし
 あまねき
 あまねく
 あまねくーし

一
 一
 一
 一
 一
 一
 一
 一
 一
 一
 二
 一
 一
 一
 一
 二
 一
 九

二〇
 〃
 二二
 〃
 〃
 〃
 〃
 〃
 〃
 〃
 〃
 〃
 〃
 〃
 〃
 〃
 〃
 二〇

あまねくーて
 あまねくーも
 あまねけーど
 あまねけれ
 あまねさ
 あまねし
 雨野
 天野
 天の明り
 あまの斎扉
 天の川
 天の川すぢ
 あまのがは星
 天の川ほど
 天の川原
 天の際
 尼の君

二
 二
 一
 一
 一
 二
 一
 一
 一
 一
 一
 一
 一
 一
 一
 一
 一
 四

二二
 二二
 二二
 〃
 二二
 〃
 〃
 〃
 〃
 〃
 〃
 〃
 〃
 〃
 〃
 〃
 〃
 〃

海人の子
 海人の子等
 天の咲手
 あまの逆風
 天の逆鉾
 天邪鬼
 天の高処
 海人の釣舟
 あまのと
 あまのとびら
 海士の苫屋
 天の橋立
 天の原
 天の陽
 天のぼり
 あまのり
 海人の小舟

三
 七
 一
 一
 二
 四
 一
 一
 一
 一
 二
 一
 一
 一
 一
 一
 五

二五
 二七
 二五
 〃
 〃
 〃
 〃
 〃
 〃
 二五
 〃
 二六
 〃
 〃
 二七
 〃
 二七

あまの小舟ら
 雨柱
 天走る
 天馳空
 天馳づかひ
 あまはせゆけーば
 亜麻畠(あまばた)
 亜麻畑(あまばたけ)
 尼法師
 雨晴
 雨ばれあと
 雨はれがた
 雨霽れ空
 雨晴れ間
 雨水(あまひ)
 天日
 雨冷え

二
 一
 一
 一
 一
 三
 一
 一
 一
 二
 一
 一
 一
 一
 一
 一

二七
 〃
 二七
 〃
 〃
 〃
 〃
 〃
 〃
 二七
 〃
 二六
 〃
 〃
 二六
 〃

雨光りせーり
 天彦
 雨泥（あまひぢ）
 蜃人
 天人
 天響き
 尼姫君
 雨ふせぎ傘
 蜃舟
 あまへーず
 あまへーたき
 あまへーて
 甘へーまほしき
 甘へ易き
 甘ぼし
 雨間
 雨間明り

一 一 一 一 一 一 一 三 一 二 三 五 三 一 一 一

二六 二六 二六 二六 二六 二六 二六 二六 二六 二六 二六 二六 二六 二六 二六 二六
 雨もよひ 雨霰 雨めく あまーむ 編まーむ 編まーむ 浴まーむ あまみや 天宮 雨水 天水 雨道 尼御台 奄美大島 甘味 雨間蝸 浴まーまし

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

二九 二九 二九 二九 二九 二九 二九 二九 二九 二九 二九 二九 二九 二九 二九 二九

雨もよひ風
 雨もよひしーて
 雨もよひすーも
 雨もよひせーり
 雨もよひーつつ
 雨もよふ
 雨漏り
 雨漏り受け
 あまもりしようま
 雨もりすーらし
 雨もれ
 あまやかさ
 あまやかさーるる
 あまやかされ児
 甘やかさーれーし
 甘やかし
 甘やかしすぎーたり

一 一 四 一 一 一 一 一 一 一 四 六 一 五 一 一 一

〃 三二 〃 〃 〃 〃 〃 三〇 〃 〃 三九 〃 〃 〃 三〇 〃 〃 三〇

甘やかしーたり
 あまやかす
 甘やかすーなり
 甘やかに
 雨やどり
 雨宿りしーて
 雨宿りす
 雨やどりする
 雨やどりせーむ
 あまやどりせーり
 雨宿りせーる
 雨宿りらし
 雨やみ
 甘ゆ
 甘ゆーか
 天ーゆくーや
 甘ゆる

一 一 一 一 二 二 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

三二 〃 〃 〃 三三 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃

あまた【副詞】

梅の花ひらきしやどのあまたあるをおくれ咲きにもなりぬべきかな①

梅の若葉に虫食む雀あまたるて声透るなり夕べひと時

熟れ切らぬ無花果の実のあまた落ち泥土は乾く悪気を吐きて

うれしくも玉にも似たる柿の実をあまた食うぶる日となりしかな⑤

魚あまた滑りくる朝の空ふかしなまいきな小娘が先になり出す

運転台より流れきたりし蜻蛉せいらいの窓にはじかれあまた死にたり⑥

運命は身ぬちに深く潜めつつあまた児童等の起ち居さやけし①

枝毎にあまた咲きたる木蓮の大きな白花の重たげに見ゆ

A博士B博士等あまた飢に病むわが知る四囲よさびしき国よ

えびがにのあまた棲み居てこの畦は水もたぬ故日々に見廻る⑦

エレベーターに真乙女あまた詰り来て天に登るが如く登りつ①

あまた

樋口一葉

鎌田民治

葛原妙子

窪田空穂

前川佐美雄

中原勇夫

池原楯雄

川崎杜外

久方寿満子

山口貴代子

立花馨

あまた

老母に小策もたせて庭にもぐ無花果の果はあまた熟れ居る①

加藤 洵 綾

おきわたす露よりあまたみゆるかな咲きに咲きたる野辺のやちぐさ③
贈られし本あまた積みぬ明日読まむとおもひ過ぎつつ月たちにけり②

樋口 一 葉
大橋 松 平

おしこむる臍の中に故郷の町のあかりはあまた近づく⑪

尾上 柴 舟

押し照るや月の下びに甲羅浮け頭ひからす亀あまた見ゆ①

原 真 弓

おしなべて国分煙草の名に負へる米葉ぐるまにあまた逢ひつも⑬

斎藤 茂 吉

おそくともにほふ梢のあまたあれば花みるほども久しかりけり①

樋口 一 葉

遅まきのトマトはあまた実をつけて青きがままに秋ふけにけり

北見志保子

落葉あまたひかりてあらむ鋪石に新聞おとす音のきこゆる⑦

尾上 柴 舟

落葉せしその枝毎にぬるでの実さびはてたるがあまたつきをり⑦

平田 澄 子

帯広にて士官あまたあり池田にて獣医総監がひとり乗りたり⑨

斎藤 茂 吉

おほかたの葉は枯れそめし叢に錆びし空缶あまた見出でつ

犬飼 篤 子